

アレキサンドリア

地中海の花嫁で知られるアレキサンドリアは、エジプトの大都市で、首都のカイロに次ぐ第2の都市です。カイロからは、北西 208 キロ、車で 3 時間ほどの距離にあり、地中海に面し、ナイル川が、最後に地中海に流れ込むデルタ地帯にあります。紀元前4世紀、アレキサンダー大王によって建てられ、地中海地域において観光・商業、そして文化の中心となり、首都のカイロとはまた違ったヨーロッパ的雰囲気もあります。



モンタザ宮殿

観光名所には、グレコ・ローマン博物館、ヤコム・エル・シュカファのカタコンベの貴族の墳墓、ソベク神とアヌビス神の像などがあります。「ローマ劇場」という古代ローマ時代に建てられた劇場があり、1964年に発見された古代ローマ様式のもので、収容人員は700～800人で、大理石の座席が12段、モザイクの床などがあります。そして「ポンペ



イの柱」という、3世紀ディオクレティアヌス帝のために建てられた、高さ25メートル、柱回り8メートルの赤色花崗岩製の柱もあります。その近くには聖牛アピスが埋葬された地下室や3つのスフィンクスがあります。カイト・ベイ要塞も、北の入江の先端にある有名なアレキサンドリアの観光名所の一つです。かつて、昔の世界の第7不思議の一つでもあり、頂上にポセイドンの像を持つ高さ125mのファロスの灯台がありました。

近代的な観光スポットには、格式ある庭園と美しいビーチを持つモンタザはモンタザ宮殿があります。街の中心部から18km東に位置しています。

モンタザ宮殿は、広大な敷地にあり、アレキサンドリア最高の憩いの場です。トルコ風とフィレンツェ様式がミックスしたモンタザ宮殿は、王家の夏の宮殿として建てられました。この宮殿は、1階はカジノ、2階、3階は王家の所有品が展示されている博物館です。



歴史の教科書によく名前が出る、先ほどの灯台のようにかつて世界の第7不思議の一つであった「アレキサンドリア図書館」は、2002年に開館しました。全長160mの巨大な円柱が海に面し、ガラスとアルミニウムで築かれたこの叡知の館は傾斜した端を持つセクションに区切られています。その内部は100本のいぶし銅で設えたパピルスをかたどった柱がアーチ形屋根を支え、70,000㎡の読書室を見下ろしています。レクチャー・ホール、アイマックス・スクリーンを供えたプラネタリウム、考古学博物館を兼ね備えたフラードームも併設されています。地下

室には約8,000点の古代文書および希少本が所蔵されていて、それらは全て分類してデジタル化され、読書室で参照することができます。

外装には世界各国の言語が施されており、日本語版も見ることができます。

以上のような歴史と様々な時代を経て出来上がったこのアレキサンドリアの現代は、正にその歴史と文化のバラエティーを表現するような町になっています。このすばらしさを持ったアレキサンドリアが海に面し温厚な気候を持っていることで、夏の国内外からの観光客の観光スポット・避暑の第一の目的地になっているのが事実です。そのおかげで、商業やショッピングが盛んになり、特に夏季期間はほぼ24時間にぎやかな毎日を楽しむ人が多いです。

